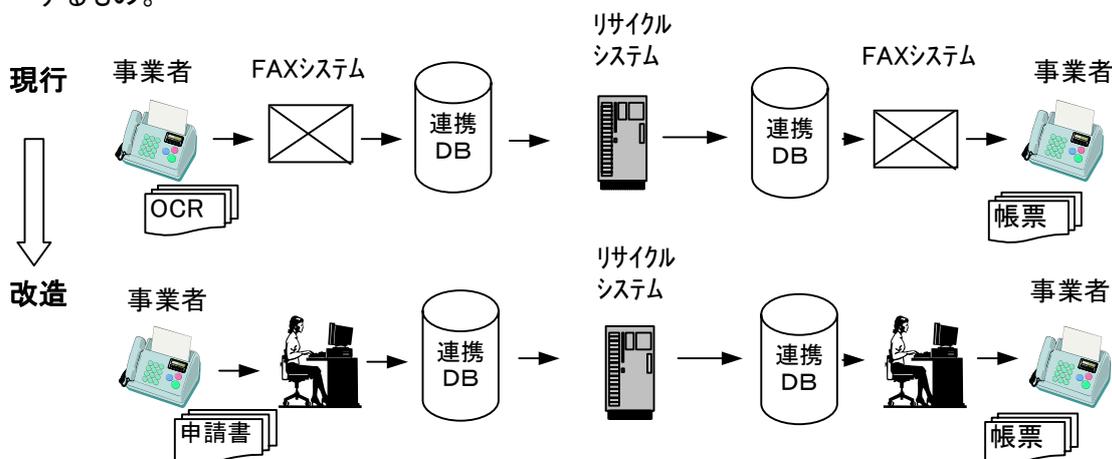


(1) 現行FAXシステムの廃止

- FAXシステムは、パソコンを持たない事業者がリサイクルシステムを利用するためにFAXを用いてインターフェースするためのシステムで、情報を入力するための入力機能と、情報を引き渡すための出力機能とがある。
- 現行のシステムは、入力・出力機能ともに自動化されたシステム(OCR帳票による自動読み取り、および事業者への自動FAX送信)であり、現在の利用規模ではシステム維持費用が過大な負担となっている。
- システム改造は、現行の自動化システムを廃止し、入出力機能を手作業で対応できるようにするもの。



(2) 利用規模の縮小化

- システム改造後の運用費用を最小化させるためには、利用規模が縮小化されることが前提となる。そのため、ファクシミリ利用事業者に働きかけてパソコンへの移行を促進する。
- パソコンに移行した事業者へのアンケート結果でも、多くの(83%)事業者がパソコンの利便性を評価しており、上記促進策はファクシミリ事業者の利益にも一致すると考える。
- 具体的な施策(案)
 - ①パソコン移行事業者に対するアンケート実施(10/27～11/4実施済み)と、アンケート結果のファクシミリ事業者への展開(12月～2月の3回実施)
 - ②大口利用者への移行促進(平成18/2月実施予定)
 - ・10台/(月間)以上扱い事業者(25社)……利用割合50%
 - ・5台/(月間)以上扱い事業者(30社)……利用割合20%
 - ③パソコン移行時の操作習熟支援(平成18/2月以降実施予定)

(3) その他の費用削減策(案)

- その他の大量処理前提のシステムに付いても、利用規模縮小化の推移を見極めつつ手作業主体の業務に随時変更し、費用削減を図る。
- (①印刷物の内部処理化、②FAX回線(ナビダイヤル)数の削減、③オペレータ業務の効率化など)

以上